

介護の現場から



「今日も楽しかった！」と帰っていただけだ。

鈴木美保さん

対応(身体面、精神面)が必要なんだと、あたりまえのことですが今さらながらその難しさを感じています。

高齢者施設ディ

サービスマン「元気倶楽部」で働いて4年目になる生活相談員の鈴木さん。●介護職の仕事を選んだ動機は？

まず中学生の時に、人と接する仕事をしたかった。漠然と思っていました。高校生になって実習で高齢者と接してみたら、また短大で社会福祉主事の資格を取り、家に祖父母が居ることもあって、私に向いているのではと自然に介護職の道を選びました。

●通所施設の職員としてどんな介護を心がけていますか？

基本的な事として、一人一人の方の情報を職員間で共有し、職員誰もが一人の方に同じ介護を提供することです。介護の技術的なことはもちろんですが「今日も楽しかった」と帰って頂けるよう心がけています。

「家族とのコミュニケーションも大切です。本人は介助して欲しい、ご家族の方に合わせた介護、

●この仕事をしていてよかったと思うことは？

車椅子への移乗や入浴介助などで大変と思う時もありますが、嬉しい思いをしている人が話をしているうちに笑顔になったり、ご家族から「以前より元気になった、明るくなった」と言われると嬉しいですね。



●仕事について3年やってきた今と介護に対する気持ちの違いはありますか？

最初は入浴、食事、排泄、話し相手の仕事と漠然とイメージしていましたが、一人一人みな違って、マニュアル通り同じ介助をしても上手くいくとは限りません。認知症の方の場合などは特にその傾向が強いです。その方に合わせた介護、

また時間制約の中での仕事なので、ゆとりを持って関わりたくても出来ない、はがゆい思いをすることもあります。

●最後に一言

まだまだ介護に疲れて大変なご家族もいるかと思えます。送迎してくれる通いの介護、訪問してくれる介護、何日か泊まること出来る介護など、いろいろなサービスがあることを是非知ってほしいです。

施設責任者の増淵さんにもお聞きしました。

「ひとりで言えば鈴木さんは『若いのに心配りの出来る、意欲的で素直な子』彼女が明るいので利用者の方も明るくなり、わが施設自慢のスタッフです。デイサービス元気がいいクラブがあり、職員も元気が明るさがウリの施設です」とPRも忘れませんでした。(K)



矢板の元気印

石井茂氏(63歳)は、現在矢板市ソフトボール協会理事長、県協会常務理事ですが、平成4年4月第1種審判員の認定を取得し、同年5月インターハイや日本リーグのソフトボール大会で審判員として活躍。その後、県協会や市協会の役員を歴任しつつ、ソフトボールを通じて地域交流や学童少女の育成を行っています。

◆ソフトボールを始めたいきっかけは何ですか？
荒井から針生に移り住んだとき、地域との接点を見いだし、地域内の交流を深め親睦を図ることに役立てばとの思いから、昭和56年4月(35歳のとき)「針生ソフトボール苦楽部」を設立し、その代表、監督に就任して本格的に始めました。

◆ソフトボールを通じて苦労や悩みは？
それぞれのチームのメンバーは、仕事や家族を持っているので、試合は原則として、平日の午後7時から午後9時までの限られた時間に行なっていますが、なかなか全員がそろうことが難しいです。また、試合を楽しんでもら

一球一審、万球万審の情熱心で

石井茂さん(中)



審判の連絡体制をきちんと取れるようにすることなどその運営に苦労しています。

◆子供たちに、ソフトボールの良さを知ってほしいとのことですが
最近の子供たちは、家の中でゲーム機で遊ぶことが多くなってきており、体力が落ちてきています。ソフトボールは、努力しながら技術を磨き、体力も増進できる身近なスポーツです。特に試合などをしながら、助け合う心が自然と芽生えてくるので、大きくなって必ず生きてくると確信しています。そして、手軽に誰でもできるので、生涯スポーツとしてもお勧めしています。ただ、ソフトボールは、ピッ

うため、トーナメント戦だけでなくリーグ戦も行い、1部2部、3部リーグの入れ替えも行なうようになりました。そのため試合数が増加し、雨の場合に試合を中止するかどうかの判断や、協会とチーム、

◆最近の明るいニュースは
矢板中央高校にソフトボール部が23年ぶりに復活したそうです。部員はまだ5名で、監督は宇津木元日本代表監督の教え子、現役時代、ピッチャー、オリシニック強化選手に選ばれたと聞いています。今後の同校の活躍が注目されます。なお、来年は、全国中学校ソフトボール大会が、大田原市で開催される予定となっているので、矢板のソフトボール全体に好影響を与えられると思います。(H)



平成21年度市協会所属のチーム数
・壮年17チーム(1部9、2部8)
・一般・混合25チーム(1部8、2部8、3部9)

編集後記

そろそろ梅雨明け。夏休みが間近になりました。昼寝の時間を少し早めに切り上げて、子どもや孫と一緒に「家読」に挑戦なんというのも素敵な夏の過ごし方かもしれません。ちなみに教育長お薦めの本は「五体不満足」でした